

今月の ひとこと

「見通し」や「トレンド」に注目している投資家は多数いる。それゆえ、「価値」に注目することが大きな利益を生む（ジョン・テンブルトン卿、拙著「長期投資道」より）
全世界に分散された株式ポートフォリオの価値は、世界経済の成長を反映してゆっくりと増加していきます。短期では見えない小さな増加です。その小さな価値の増加が何十年という長い期間のうちに大きな価値に育ちます。初めに積立投資の手続きをして、後はずっとそれを続ける。続けていることを忘れてしまうぐらいがちょうどいいのです。そして、リタイアしたときからその資産を取り崩していく。持っている資産で自分の幸福感を最大化すればいいのです。退職後のための資産形成はとても単純です。老子先生も道徳經でおっしゃっています。「わたしはだれにでも理解でき、実行できることしか言っていない。にもかかわらず、理解できる者もなく、実行できる者も少ない。そもそも、理解する者が少ないからこそ、わたしの説に従うものは貴いのだ」（拙著「老荘に学ぶリラックス投資術」）。

+++++
FACEBOOK上で約3600人のクラブ・インベストラライフの仲間が参加し、活発な議論をしています。投資未経験者の方の質問や疑問も大歓迎です。FACEBOOKに登録している方、ぜひ、ご参加ください。

鉄人に聞く投資の疑問

講演：大江 英樹氏、馬淵 治好氏、竹川 美奈子氏、岡本 和久 レポーター：佐藤 安彦



質問者A：竹川さんのお話で損益計算書の話が出てきましたが、実際に我が家でも使途不明金の問題を2年間くらい掛けて調べたんですね。それで、今日も感じた事なんですが、サラリーマンにとっては支出の勘定科目を作るのが難しいのではないかと思います。それが使途不明金を作る原因のひとつになっているのではないかと感じています。商売をされている方や会社を営んでいる方であれば勘定科目も出せますけど、サラリーマンにはその辺のセンスが必要になってくるのかなと思いますが、どうでしょうか。

[読んでみる](#)

I-OWAマンスリー・セミナー講演より 障害のある子から学ぶお金と教育の心構え

講演：住山 志津枝氏 レポーター：赤堀 薫里



『お金で学ぶさんすう』の住山です。私は普段障害のある子どもを専門に教育を行っています。なぜはじめたかというと、私の子どもに障害があるということが一歳くらいの時にわかったからです。始めは泣き暮らしましたが、いろいろな人の支援を受けながら、自分の子どもを将来自立した人間にしないといけないと心を決めました。その時に何が必要かという時に、お金の教育が必要だと思ったのです。世の中に就労支援は数多くあるけれど、働いて稼いだお金をどのように使うのか、管理するのかということを、障害の特性に合わせて教えてくれるところが全くありません。そこで自分で始めようと思いました。そこからファイナンシャル・プランナーの勉強も始めました。

[読んでみる](#)

I-OWAマンスリー・セミナー講演より ハッピー・マネー®教室で子どもたちに伝えたいこと

講演：岡本 和久 レポーター：赤堀 薫里

クラブ・インベストラライフとは？

人生を通じての長期投資は孤独な長旅です。この長旅に耐え、大きな喜びを得るには、資産運用を行うための基礎となる知識と孤独な旅を支えあう仲間が必要です。「将来の自分はいまの自分が支える」ほかない時代、クラブ・インベストラライフの活動は、豊かで幸せな人生のための投資を目指しています。

毎月、ネット上で会報誌を公開するほか、FACEBOOKやTwitter上で議論の場を提供し、各地でのセミナーを開催しています。

まったく投資の経験のない方も多数、参加しておられます。大手金融機関から完全に独立しているので、特定の商品をお勧めすることも販売することは一切ありません。

<FACEBOOK、TWITTERへの 投稿の際のお願い>

1. 個別商品の販売・推奨、あるいはそれに類する投稿はご遠慮ください
2. 発言はあくまで個人としてのものとしてください
3. 企業広告はご遠慮ください

I-Oウェルス・アドバイザーズの メール・マガジン

メルマガへのご登録は下記のメールアドレス宛に、空メールを送信下さい。購読は無料です。

mag@i-owa.com

毎月15日配信 無料

Facebook

Facebook上のグループ、クラブインベストラライフ
<http://www.facebook.com/groups/investlife/>

Facebookへの登録が必要です。リクエストボタンを押して入会申し込みをしてください。

[Facebookへはこちらをクリック](#)

Twitter上のグループ
クラブインベストラライフ
http://twitter.com/c_investlife

Twitterへの登録が必要です

[@c_investlifeさんをフォロー](#)

バックナンバー 一覧

- 2019年01月15日発行 Vol.193
- 2018年12月16日発行 Vol.192



子ども向けのマネー教育を始めてちょうど15年目です。起業をしてから、はじめは大人向けの投資教育をしていましたが、経済同友会の出張授業に参加することで、中学、高校で話をすることが増えました。気がついたことは、大人もお金や投資のことを知らないけれど、子どもはもっと何も知らないということ。それは、日本が抱える非常に大きな問題でしょう。

[読んでみる](#)

- [2018年11月15日発行 Vol.191](#)
- [2018年10月15日発行 Vol.190](#)
- [2018年09月18日発行 Vol.189](#)
- [2018年08月15日発行 Vol.188](#)
- [2018年07月16日発行 Vol.187](#)



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸



★王の846号ホームランバットのエピソード ★遺憾 ★旧乃木邸のマッカーサーが植樹したハナミズキ ★割愛（かつあい） ★幻のノーベル賞（山際勝三郎） ★指切りげんまん

[読んでみる](#)

資産運用こぼれ話 絶対にやめてはいけない

寄稿：岡本 和久



年末にかけ世界的に株式市場が下落をしました。多くの方が恐る恐る投資を始めたところ、下落局面に遭遇して不安を感じたことだと思います。そのような方には「絶対に止めてはいけない」と言いたいです。

[読んでみる](#)

インベストラ이프・アーカイブより 「歩み寄る投資運用と社会貢献活動」（2003.11）

座談会：高橋 陽子氏、伊藤 宏一氏、澤上 篤人氏、岡本 和久

<今、読んででも新鮮な記事です> 年金は先細り、政府・地方公共団体の財政は窮乏状態。今後、社会保障や公的サービスの質は格段に低下していくことが予想される。この社会の荒廃をくい止め、生活の質を向上させるにはどうしたら良いのか？ そこでは投資とフィランソロビーの歩み寄りが、大きな鍵になってくるに違いない。

[読んでみる](#)

参考データ・コーナー

基本ポートフォリオのパフォーマンス

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン／投信まとなび

基本ポートフォリオのパフォーマンス 2019年1月は4資産成長型が3.25%、2資産成長型が3.82%のパフォーマンスでした。世界各地のパフォーマンスは <https://www.ibbotson.co.jp/market/> でご覧いただけます

[読んでみる](#)

投信データ・ウォッチ

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン／投信まとなび

投信データ・ウォッチ 今回は国内で購入可能な代表的ETFの2019年1月末の運用状況をリストアップしていただきました。上場インデックスファンドTOPIX（日興AM）、MAXIS トピックス上場投信（三菱UFJ国際）、上場インデックスファンド世界株式（MSCI ACWI）除く日本（日興AM）、Vanguard・トータル・ワールド・ストックETFなどのデータを紹介していただきました。

I-OWAたより

岡本和久のI-OWA日記

★「お金と心」出版記念講演会を開催 ★鉄人寄席IN大阪 ★鉄人寄席を控えてのディナー ★女税連京滋ブロックで講演 ★誕生日寄付のススメ ★練馬区の高校で出張授業 ★これ、やっぱり、UFO・・・？ ★Webinarで講演 ★第160回I-OWAマンスリー・セミナーが開催されました ★バンガードのボーグルさんが逝去

[詳細はこちらをご覧ください。](#)

セミナー案内

2019年2月17日（日）12:30～16:30 東京 I-OWAマンスリー・セミナー（161回）

■会場：東京都渋谷区広尾1-8-6-7F（当社オフィス） <http://www.i-owa.com/company/access.html>

■プログラム

12：30～13：30 「長期に成長する企業の見分け方」（講師：岡本 和久）

13：40～14：40：「世界の歴史とお金の統合」（ゲスト講師：帝京大学文学部史学科教授、東京大学名誉教授、今村 啓爾氏）

14：45～15：30：フリー・ディスカッション

15：30～16：30：懇談会

■スポット受講料：教室での受講は10000円＋税 予約必須、動画での受講は5000円＋税 お申込み、お問合せ： info@i-owa.com

2019年3月17日（日）12:30～16:30 東京 I-OWAマンスリー・セミナー（162回）

■会場：東京都渋谷区広尾1-8-6-7F（当社オフィス） <http://www.i-owa.com/company/access.html>

■プログラム

12：30～13：30 「『遊びの時代』のお金との付き合い方（仮題）」（講師：岡本 和久）

13：40～14：40：「投資について明るく語ろう（仮題）」（ゲスト講師：さわかみ投信会長、澤上 篤人氏）

14：45～15：30：フリー・ディスカッション

15：30～16：30：懇談会

■スポット受講料：教室での受講は10000円＋税 予約必須、動画での受講は5000円＋税 お申込み、お問合せ： info@i-owa.com

4月21日（日）

12:30～16:30 東京 I-OWAマンスリー・セミナー（163回）

■会場：東京都渋谷区広尾1-8-6-7F（当社オフィス） <http://www.i-owa.com/company/access.html>

■プログラム

12：30～13：30 「退職後資金の引き出し方法を検証する（仮題）」（講師：岡本 和久）

13：40～14：40：「未来を明るくする技術開発（仮題）」（ゲスト講師：発明家、斎藤 健氏）

14：45～15：30：フリー・ディスカッション

15：30～16：30：懇談会

■スポット受講料：教室での受講は10000円＋税 予約必須、動画での受講は5000円＋税 お申込み、お問合せ： info@i-owa.com

（公開分のみ）

[詳細はこちらをご覧ください。](#)



鉄人寄席誌上ライブ 鉄人に聞く投資の疑問

講演: 大江 英樹 氏、馬淵 治好氏、
竹川 美奈子氏、岡本 和久
レポーター: 佐藤 安彦

今回は、鉄人寄席の際に参加者のみなさまから寄せられた質問にお答えします。

質問者 A: 竹川さんのお話で損益計算書の話が出てきましたが、実際に我が家でも使途不明金の問題を2年間くらい掛けて調べたんですね。それで、今日も感じた事なんです、サラリーマンにとっては支出の勘定科目を作るのが難しいのではないかと思います。それが使途不明金を作る原因のひとつになっているのかではないかと感じています。商売をされている方や会社を営まれている方であれば勘定科目も出せますけど、サラリーマンにはその辺のセンスが必要になってくるのかなと思いますが、どうでしょうか。



竹川: はい。ありがとうございます。支出の項目ですが固定費については皆さん分かると思います。住宅や教育や車や保険などですね。問題は変動費です。ここはご家庭ごとにさまざまなので、一回何に使っているかを全部出してみて、それを図書費や通信費や服飾費みたいな費目に分ける作業が大事だと思います。ここが難しいんですね。これは慣れが必要だと思うので、繰り返しやりながらいくつかのパターンを探していくしかないと思います。

それから今日はお話しませんでした、バランスシートは夫婦で合算しなくてはいけません。共働きをしている夫婦は、共通の口座にそれぞれ比率を決めてお金を入れているいろいろな引き落としをするようにして、貯蓄と投資はそれぞれでやるという管理をしている夫婦もいます。「やっているよ」と言っているけどやっていないケースもあり得ると思うので、管理は別々でよいから、年に一度は情報開示をして、決算する必要はあると思います。センスは磨いてください。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

これとは直接関係ありませんが、お金の見える化をしてくださいという話をしました。なぜこれが大事なのかというと、投資の話にも通じるんですよ。例えば投資信託でいうと、最近またリスク限定型投信とか元本確保型投信が売れてきていて、例えば1000万円あった場合、金融機関としては全部引き受けたいですよ。でも、リスクを限定化させるのにそういう投信を買う必要があるかという、そんなことはないですよ。リスクを抑えたいのであれば、投資に回す金額を調整すればできます。金融機関はみなさんの資産の全体を把握しているわけではないので、ご自分で金融資産全体を俯瞰して見る必要があると思います。その上で投資を考えた方がいいし、商品を選ぶ方がよいと思うので、見える化をしてくださいという話をさせていただきました。

大江： そうですね。今、話に出たリスク限定型投信には信託報酬が1%くらいのものが結構ありますよね。ということは、これに100万円投資すると1万円の手数料が掛かるのですが、中身を見ると株式への投資比率は10%くらいで、あとは短期金融商品になっていたりするんですね。それだったら10万円だけ株式投信を買って、あとは定期預金にしておけばいいんですね。

インデックスファンドであれば信託報酬が0.2%とか0.1%くらいのものがありますので、そうすると10万円であれば信託報酬は200円位ですよ。1万円と比較すると50倍違いがあるんですよ。別にリスク限定型投信を買わなくてもよいというのは、竹川さんがおっしゃっている通りだと思います。

岡本： 確かに投資信託の運用の中身を見ればね、実は個人でも作ることができる内容なんですよね。特に何本かのアクティブファンドを持っていると、全体的に見てみれば、投資先はインデックスファンドを持っているのほとんど変わらないなんてことがあります。それぞれに高い手数料を払っていろいろやった結果として、コストの安いインデックスファンドと似たような構成になっている。これは注意しなければいけない点です。今は個人が使えるファンドが増えてきたことは良いことだと思います。

質問者 B: 今日、勤務先の企業年金基金の報告書を持ってきたのですが、中身を見ると、平成28年度は運用損益が489億円のプラスでその運用報酬が48億円となっているんですね。この前年は中国経済の失速の影響が出たみたいで、運用損益は50億円のマイナスなのですが、その時も運用報酬は48億円支払っているんですね。運用の仕方って、こういうものなのか、何かおかしいと文句を言った方がよいのか、これを年金基金の人や勤務先の総務部の人にも聞いても誰も教えてくれないんですね。昨年から、企業型確定拠出年金の制度が始まったんですけど、その運営管理機関も同じ金融機関なので大丈夫なのかなと心配しています。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

- 岡本： 最初のお話は確定給付型なんだと思いますが、だとするとあり得る話だと思います。普通、預かっている残高に対して一定の手数料率が掛かってくるので、例えばパフォーマンスが悪くても、それはいただくという形になっています。しかし、逆にパフォーマンスが良くても固定ということになります。運用機関は少しずつでも儲けて増やしていこうとはしているんだと思います。これは GPIF も似たようなスタイルですよ。ただ、一部については、パフォーマンスに報酬がスライドするものもあります。要するに、成功報酬型で、儲かった部分の何%を手数料にするという形です。全体の一部をこのようなファンドに配分するケースもあるように思います。
- 大江： 理屈として考えた場合、儲かったら払うけど、損しているのにお金を払わないといけなのはなぜかというお気持ちは非常によく分かります。しかし、あまり成功報酬型の方が重視され過ぎると、スタイルドリフトみたいな事が起こるんじゃないかなと思います。
- 竹川： やはり成功報酬型は短期的な思考になりやすいので、それはそれで問題があると思います。なので、成功報酬型がよいのかというのは賛否両論ですね。長期的な分散投資とした場合は難しいのかなと思います。
- 大江： 48 億円の手数料が資産全体の額から見たときにどれくらいの割合なのかはポイントなんだと思います。
- 岡本： ヘッジファンドなどでは、マーケットニュートラルといって、相場状況に関わらず儲けを出そうとするようなものがあって、それらは成功報酬型が多いのです。一般にこのようなファンドはあまり大きな金額での運用はできないので、大きな年金となると採用はどうしても限定的になってしまいます。
- やはりご質問のケースは仕方がないのだと思います。ただ、年間のマイナスがずっと続いていくようであれば、基金としてその運用機関は切った方がよいと思います。あまりにも運用が下手だということなのでね。毎年上げ下げはあるものの、10 年くらいを通して見た場合に、それなりのパフォーマンスが出ているということが大事だと思います。GPIF は下がったときは叩かれますけど、上がったときは誰もそれを報道してくれないのですが、10 年単位でみればそれなりには増えてきています。年金の運用というのはそういうものだと思うください。
- 大江： あと、確定拠出年金の運営管理機関が同じ金融機関だというご質問についてですが、運営管理機関というのは、運用会社そのものがやっているわけではなくて、運用会社の同じグループの信託銀行や生命保険がやっているんですね。そして確定拠出の運用商品は、ひとつのグループの商品しか並んでいないというのは比較的珍しくて、仮に三菱



長期投資仲間通信「インベストラيف」

が運営管理機関になっていたとしても、商品としては、ニッセイも野村もみずほも入っているケースが多いと思います。

質問者 B: 今おっしゃった通りです。ちゃんと見たらいろいろ入っています。

大江: そうですね。それならばよいと思います。それが選ばれた経緯はわからないのでコメントしませんが、その商品からどれにすればよいかは自分で選ばいいのです。確定給付型年金の場合は、全てそこをお願いするしかありませんけど、確定拠出型年金の場合は、提供された商品の中身を見て、信託報酬が安いとか今までの運用成績が良いとか、そういうことを考慮しながらご自身で選んでいけばよいので、運営管理機関のことについては、余りにされなくてよいと思います。

質問者 C: 馬淵さんに教えていただきたいのですが、日銀が ETF を大量に持っていて大株主になっていたり、買い付けるファンドのベンチマークを日経平均から TOPIX に変更することなどが話題になっていますが、最後どういう決着をつけるつもりなのか、いつか、市場に売却するとなるとマーケットはかなり下がりますよね。

馬淵: ETF は国債と違って償還がないので、いつかは市場で売らなくてははいけませんよね。日銀のプランとしては今から景気が良くなって株価が上がって、いくら日銀が売っても大丈夫だという状況になるとよいなと思っているのだと思います。

岡本: 確かに香港も自国の ETF を大量に持っていましたけど、マーケットが上がっていった時に消化ができたという経緯がありましたから、日本でもそういうことはあるのかもしれませんがね。ただ、あれほどの ETF を持っていて、それが売り圧力になる時はいつか来ますよね。日銀の買いが好材料になっていますけど、私から見ると悪材料に見えますね。

大江: バランスシートの問題は別にしておいて、マーケットに対するインパクトとしては、信用取引の買い残高が増えているのと同じとも言えますね。ただし、信用取引の場合、期日があるのに対して、ETF は期日がないので、そこをどうコントロールしながら解消していくのかなというところなんでしょうね。

馬淵: 私は、日銀の ETF 買いは、マーケット全体に対するインパクトは上にも下にもないのだと思いますけどね。専門家によっては極端なことを言う方もいますが、株価は企業収益に沿って動いているんだと思います。銘柄によっては浮動株が少ない場合に対しては、かなり買い上げてしまっているということで株価形成が歪んでいる場合もありますけど、マーケット全体の首根っこを日銀が左右しているとはちょっと思えないですね。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

岡本： 馬淵さんの言うように長期的には株価は価値の周辺で乱高下しています。ですから、一時的な売却は株価には売り圧力になりますが、それが永遠に続くわけではない。しかし、日銀の買いでかさ上げされた部分が、はげ落ちるということだと思います。その時点で価値がどれくらい増えているかということでしょう。問題は金額が大きくなるとその調整が長く続くということではないでしょうか。

竹川： ガバナンスの面では大丈夫ですか。

馬淵： ETFは信託銀行に預託しているので、日銀が直接の株主にはなっていない形にはなっていますね。だから議決権行使は信託銀行が行っているという説明がされています。それよりも、私は日銀の金融政策が完全に暗礁に乗り上げてしまっていると思っています。これはETFだけではないのですが、2013年4月に黒田バズーカーと呼ばれた日銀の政策が始まりましたけど、直後からこの政策は失敗すると思っています。投資家や企業の心理に働きかける部分はあったかと思いますが、実際に成功していないと思います。だけど、日銀はそれを成功していないとは言えないですよね。私はもう言ってしまうとよいと思いますけどね。私はいま日銀がとるべき行動は、一生懸命頑張ったけど失敗しましたと認め、これからまっさらな気持ちで、白紙で、どういう金融政策が好ましいのかを考えて説明して実行するべきだと思います。実際に物価が目標の2パーセントまで上がっていないですし、低金利政策で金融機関の経営がうまくいっていない所も出てきています。やはり金融機関がうまくいっていないとリスクを取れないですよね。銀行が貸し倒れリスクを取れないと融資が伸びなくて経済全体がまずい方向に進んでしまいます。黒田さんは「デメリットは将来的には出るかもしれないけど、今は問題ない」と言っています。しかし、メリットが出ているのかということについても、将来的に出てくるなんて言っている状況です。また、金利についてもずっとゼロ金利を続けますと言っている一方で、将来的には利上げするかもしれないと、矛盾のある説明をしていて、その矛盾を突くと、「そこは聞かないのが優しさでしょう」と言っているんですね。日本人には理解できるかもしれませんが、海外投資家は全く理解できないみたいですね。

岡本： 私が黒田さんの政策において一番の問題だと思っているのが、問題の解決をデフレに置いたことです。インフレの反対だからデフレなんでしょうけど、これを景気回復という目標にしていたならば、失業率などは改善しているんですよね。物価は上がっていないけど経済は良くなっている面もあります。だから効果は出ましたと言えたんでしょうけど、そうではなく、物価の上昇＝デフレ脱却と置いたところが大きなミスだと思います。

馬淵： 日銀を攻めるのは酷なところもあって、日銀は通貨の番人であって、景気を良くするミッションは表向きにはないんですよね。なので、物価で語らざるを得ないんですよね。景気



長期投資仲間通信「インベストラيف」

が良くなって失業率が下がれば、当然物価は簡単に上がるとみんな思っていたわけです。物価で語ることはできない日銀は2割を目標にしたのですが、実際にはなっていない。「失敗です」という話になるので、今さら失業率やパートの時給が上がっているという話に持っていけないんですよ。

岡本： でも本来、金融政策の目的は物価だけではなくて、経済全体を対象にしたものですよ。

馬淵： はい。本当はそうなんです。でも、日銀がやっているのは、物価と為替と金融システムの安定だけなんですよね。

大江： これがFRBなら雇用の最大化というのがあるんですけどね。

馬淵： はい。日銀にはそれが入っていないんですよ。

岡本： だから仕方ないという話にはなりませんが(笑)、まあ、そこは気の毒な部分はあるとしても、なにか景気を良くする＝デフレ脱却というのが、染み付いてしまっていて、デフレ脱却自体が景気を良くすることみたいなイメージになり過ぎてしまったんだと思います。物価が上がりましたら、みんな文句言いますよ。我々、インフレのひどかった時代を知っている人間から見ると物価上昇を政策目標にするのは違和感を持ちます。

馬淵： はい。そうですね。いろいろな分析を見ても、物価が上がるとツライというのが消費者の反応だと思います。企業のマインドも家計のマインドもそこまで上がっていないですね。こうなると金融政策だけでは崩せないと思いますが、当時の日銀の副総裁は金さえ撒けばなんとかなると発言してしまった訳ですね。日銀の中でも限界を分かっている人はいると思います。

質問者 D: 長期的に投資をするといったときに、世界のインデックスを対象にするというのは確かにその通りなんですけど、我々は日本人で日本で生活をしています。将来的に為替がどうなるか分からないとすると、例えば株が上がっても為替が負ければ利益はゼロになってしまうみたいなことも考えられますが、そこについてどうお考えなのか聞かせてください。もうひとつは、株価の妥当性というのがよく分からなくて、PERは一時は30倍と言われていたけど、いまは15倍くらいと言われてたりして、そういう所も長期的に見た場合に株価の妥当性をどう見たらよいと思いますか。

岡本： まず為替のことを考えても、日本で生活をしているのだから日本株メインでいいじゃないかという意見は根強いものがあります。しかし、長期投資の大きな目的は購買力の維持



長期投資仲間通信「インベストラيف」

です。私たちの生活は世界中の企業によって支えられているのです。将来、世界的に物価が上昇したとします。その結果、海外の企業にインフレ利得が発生した際に、それを取り戻す策として海外の株式に投資をするという考えはあると思います。これは好みの問題もありますし、考え方はいろいろだと思います。メインの投資先として株は全世界だと思っていますけど、債券は日本のものだけでよいと思っています。なので、ご自分の考えでちょっと株式も日本寄りにしたいのであれば、全世界株式と日本株式を半分ずつにするなどの割合を調整するのがよいと思います。ここは皆さんの感覚の方が大事だと思います。

竹川： 補足させていただきますと、株式インデックスですと、日本の場合は TOPIX 連動型だったりします。海外株式の場合は MSCI-KOKUSAI という先進 22 か国を対象にしたインデックスが一般的で、この二つを比べると価格の変動幅が大体同じか、むしろ TOPIX の方が大きいときもあるんですね。なので、岡本さんと同じ考えで、世界全体の株式に投資をする方がよいと思います。国内株式の投資については、個別企業の株を持つということや運用方針をよく知った上で、アクティブファンドを買うのもよいと思います。

馬淵： PER の話なんですけど、PER には構造的に欠けている部分もあります。それは長期的な成長率という観点なのですが、それによって、日本企業の長期的成長に疑問符が付けられつつあります。この疑問が正しいかどうかについて、私は残念ながらその懸念が当たっていると感じています。これは少子高齢化の影響だけでなく、経営や経営の背景にある日本社会にあるリスクの取らなさ加減というのがあると思います。

端的に今キャッシュが余っている状況だけど、投資もしない、M&A もしない、給与も上げない、経営の責任も取らない。そういった面をアメリカの投資家は見ているので、日本株はすぐには売るつもりはないけど、20 年 30 年というスパンでは投資したくないとハッキリ言われています。その原因は、先ほど挙げた部分もありますし、創造性がないし、スキャンダルも多いけど、それも起こるべくして起こっていると言われ、反論の余地はなかったですね。

また、海外に出たくない若者も増えていて、アメリカに留学する学生が減っているんですね。この前、聞いて驚いたのが、総合商社の就活で海外赴任を希望しない子がいるってことです。どういうことなんだと思いました。そういうところが日本って大丈夫？って気持ちにさせているのだと思います。経営に関する話ですとシャープの例を見てもホンハイに買収されたら良くなったよねと言われました。日本は、現場は優秀だけど経営者はよくないから、日本人経営者はクビにして、みんな中国人か韓国人か台湾人にしたらと言われ、返す言葉がありませんでした。これを大阪の商工会議所で言ったらメーカーの人たちは頷いていました。そういう状況が株価に現れてくるんだと思います。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

大江： 海外資産についての話が出ていますが、外貨と外国資産は混同しないようにしてくださいね。私は外貨を持つ必要はないと思っています。なぜならば日本に住んでいますし、海外移住をする訳でもない、子供が留学しているわけでもないので外貨は必要ないんですね。だけど、外国資産は持っていた方がよいと思います。なぜなら将来的にどこの地域が成長するか分からないからなんです。そういう意味でもグローバルなインデックスを持っておく意味はあると思います。ただ、ホームカントリーには思い入れはありますから、比率は時価総額の通りにする必要はないと思います。

質問者 D: ありがとうございました。

大江： はい。ではこれで質疑応答のコーナーは終了させていただきます。同じような催しを、地方で開催してほしいというリクエストもいただいていますので、その際には皆さんに声をお掛けします。みなさんの資産運用がうまくいくことを願っていますし、我々もいろいろな所で活動をしていきますので、引き続きご愛顧いただけたらと思います。本日は丸一日ありがとうございました。

全員： ご清聴ありがとうございました。



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 障害のある子から学ぶお金と教育の心構え

講演：住山 志津枝氏
レポーター：赤堀 薫里

『お金で学ぶさんすう』の住山です。私は普段障害のある子どもを専門に教育を行っています。なぜはじめたかという、私の子どもに障害があるということが一歳くらいの時にわかったからです。始めは泣き暮らしましたが、いろいろな人の支援を受けながら、自分の子どもを将来自立した人間にしなければならぬと心を決めました。その時に何が必要かという時に、お金の教育が必要だと思ったのです。世の中に就労支援は数多くあるけれど、働いて稼いだお金をどのように使うのか、管理するのかということ、障害の特性に合わせて教えてくれるところが全くありません。そこで自分で始めようと思いました。そこからファイナンシャル・プランナーの勉強も始めました。

実務経験の必要性も感じ、また将来、学校教育にも入ることを目標としていたので、教育委員会でボランティアとしてお世話になりました。その中で気づいたことが、一桁の引き算、足し算はできるけど、お金になると全く計算ができない子、逆にお金の計算はできても一桁の計算もできない子がいるということでした。なぜ同じ数、同じ計算でありながらこんな差が出てしまうのか。そこを追求しはじめました。なおかつ、お金を使って数や計算を学んだら、今の暮らしにも役立つし、将来の生活にも役立ちます。一石二鳥ではないかと思い始めました。



教育基本法には『職業および生活との関連を重視しましょう』と謳っています。今の教育は職業を意識していますが、生活も意識したらもっと子ども達にとってわかりやすい教育ができるのではないかと思います。私たち『おかねで学ぶさんすう』でお料理教室をやっているのは、ひとつに、一月の家計のやりくりの最小単位だと思っているからです。1回の調理実習を1日3回やったら1日の生活費に近づく。それを30日続けたら一月のやりくりにつながる。それにプラスお医者さん代や、衣服を買うお金を足せばいい。一年後になっても一生分になっても、収入の範囲内でやりくりをするという考え方は変わらないと思います。ただ、将来の年金はいくらもらえるのか、老後資金はいくら必要なのかということは、予想も入るし金額も大きくなるので専門家を頼っていいのではないの



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

かと思います。大人でも人に頼るという姿勢が必要だと思います。

お料理教室の先生をしていますがよく失敗します。でも失敗しても最後まで諦めない姿勢を学んでほしい、失敗したらどうすればいいのかお手本として自分を見てもらいたいです。そのことで子どもたちが安心してチャレンジができる意欲を育てたいと思っています。

学校算数は、概念を学習しています。それを生活算数は具体的なものに落とし込んでいきます。その違いが、学校算数と生活算数との違いです。お金の計算は判断の指標にすぎません。お金のやりくりは、自分自身の価値観に基づいた判断そのものです。収入の多さと幸せは比例しません。それは、自分自身の幸せがきちんと明確化されているかどうか。明確化されていたら、『自分はお金を使ったら幸せだから、ここにお金を使おう、他のところは節約しよう』と判断ができます。

『特別支援教育は全ての教育の原点だ』ということを、特別支援学校の先生に教えてもらいました。まず、大人も子どもも障害があるなしに関係なく、お互いに学び合う環境が支援学校はすごくできているなと思います。知識や心構えを学ぶことも、今も役立ちますし、将来もずっと役立っていきます。私たちのやっていることは、私たちだけでは無理です。教員も保護者も地域の方もみんなが力を合わせて、共に子どもたちの子育て環境を育めたらいいなと思います。

講演ではファイナンシャル・プランナーを保健室の先生に例えたわかりやすい説明や、実際に授業で行う『お昼のメニューを考える』ワークショップを行いました。ワークショップを通じて、学校の勉強がなぜ大切なのか、お金のやりくりの基本が学べるプログラムとなっていました。始終、熱い思いが伝わる講演でした。



I-OWA マンスリー・セミナー座談会より 住山志津枝氏とのフリーディスカッション

講演：住山 志津枝氏
レポーター：赤堀 薫里

参加者 | お父さんとお母さんが好きなモノを買っているのを見て、子どもが駄々をこねるでしょ。私は娘と孫のやりとりを見て、すぐ買ってあげようとしてしまうのですが、実は葛藤しています。

住山 | 今日は、好きに買って良い日だということをはっきりとわからせてあげる。『今日は必要なものしか買わないから、おやつを買わないよ』と、最初の予告で言うことが必要だと思います。やはり楽しみも必要なので、きちんと分けてわからせてあげる。すると、使い分けがあるということ、子どもたちはだんだん学んでいくのではないかと思います。



参加者 | 子どもは、親が好きなモノを買うと思っていますよね。

住山 | 子どもたちにとって何がわからないのかというと、前は『買っていいよ』と言われたのに、今日は『買ってはだめ』という場面の違いがわからない。だから事前に『今日は何々を買います』ということを伝えてあげることが大事です。『お財布の中にはお金があるのに買ってくれない。ママはこっそりお菓子を買っているみたい』ということを知っていますのでね。予算というモノをわからせてあげる。なおかつ必要なモノと欲しいものがあるということをはっきりとわからせてあげることが大事だと思います。

参加者 | それでも駄々をこねられたら。

住山 | 我慢をさせる。厳しく。絶対折れません。そうしないと将来その子のために良い教育ができないと信じているので、そこを貫き通すこと。大人の方が約束を守ることが大事だと思います。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

岡本 | 必要なものと欲しいものとの基準は、大人と子どもでは違いますよね。どうやってすり合わせたらよいですか？

住山 | 私の場合、文房具だったら、お母さん文具店という仮想店舗をつくり、最低の基準というものを教えています。例えば 50 円の消しゴムがあれば、300 円位するキャラクターの消しゴムもあります。『ここで買えば消しゴムは一個 50 円だけど、これと違うもっとかわいいものが欲しいのであれば、自分のお小遣いから買ってね。最低必要な基準はここですよ！』ということを教えてあげるようにしています。

参加者 | 子どもは、お小遣いを管理しているのですね。

住山 | 子どもには、自分のお小遣いを管理させています。最初は、文房具とお菓子というところから始めました。一ヶ月の見通しが障害のある子どもたちには特に難しいです。まず一週間という単位から始めます。『一週間で必要なものの中で、文房具代は取り分けておきましょうね。残りのお金はお菓子を食べてもいいですよ』という約束をしますが、使い込みをします。そこで使い込みをしても絶対に助けない。

家では、文房具のお金、お菓子のお金と分けておいたのに、最初だったので嬉しかったのでしょうね。文房具代までお菓子のお金として使い込みをしてしまいました。そしてノートが買えなくなってしまいました。一回目はかわいそうだと思ったのと、借金を勉強させようと思い、100 円を貸してあげて、ノートを買わせました。

ご丁寧に返済計画表まで作りました。半年かけて 100 円返済させました。借金を返している時は、『借金があるから好きなお菓子が買えない』と言っていました。でも、それが終わったら、また使い込みをしました。そしてまた同じように『お母さん、僕、借金する！』と明るく言うてくるわけですよ。

本当にお金の大切さを学ぼうと思ったら、無くなって困る経験が必要だと思ったので、『借金はいけません。学校へ行って明日怒られてきてください』と言いました。もちろん、学校へ事情を前もって電話で伝えておきましたが、でも、そこから使い込みはしなくなりました。

参加者 | お小遣い帳はどういうものを使っていच्छやっただのですか。

住山 | クリアブックに、文房具代、お菓子代というように費目ごと分けて、そのままお金を直接入れて管理するようにしていました。そこからお金を出していく。

参加者 | 紙に書くことはしないで。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

住山 | 紙には書くことはしていません。透明のポケットなので、今いくらか、お金が見えるようにしています。

参加者 | スイカとか電子マネーは使ったりしますか？

住山 | 子どもにはまだ教えていません。今、どうやって教えたらよいのか課題です。ただ、現金を使って、まずは感覚を身につける。量感というか、減る感覚を身につけるというのが大事なのではないかと思っています。あとは予算というものがあるということです。

参加者 | 習い事に行く時に、子どもには子ども専用のスイカを持たせています。一ヶ月千円とか金額を決めて持たせていました。すると、コンビニのお菓子をスイカで買ってしまい、一ヶ月もたらずに無くなってしまいます。習い事に行かなければならないので、またチャージをしなくてはならない。それが習慣になってしまい困っていました。今のお話を聞いて、交通費ということで現金を管理した方がいいなと思いました。

岡本 | 『お小遣いの決め方をどうしたらいいのでしょうか』ということをよく聞かれますが、それはどうでしょうか。

住山 | やはり必要なモノと欲しいものときちんと分けること、ここがお金のやりくりだと思っています。保護者の方にお伝えすることは、まずお子さんに買ってあげているものをひたすらリストアップしてもらい、それがいくらなのか書いてもらいます。その中で、何を子ども本人に管理させるのかというのを決めて、その金額の合計がお小遣い。その中には必要なモノと欲しいもの両方を含めます。本人に判断をさせるので人それぞれ違います。

岡本 | それでは本人との合意に基づいて金額を決めて、この部分とこの部分で分けて使っているということですね。

住山 | そうです。だんだん本人の能力に応じて金額を増やしていく。

岡本 | 範囲を広げていく。

住山 | そうです。今、私は本人に全部任せて管理させている感じです。一週間 300 円から始めましたが、今は月 1 万 5 千円渡しています。その中には、制服の貯金から学校指定用品から散髪代、衣服代まで全て含まれています。

岡本 | 自立できますね。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

住山 | そうなんです。料理もできる子なのでごく助かっています。

住山 | 障害のある子たちにとって、1円玉5枚と5円玉1枚が、見た目も量も何もかも違うので同じだと言ってもわかりにくい。あろうことか、5円玉だけ数字の5ではなくて漢数字の五なのです。学校では、最低でも足し算と引き算ができないと無理だとか、100まで数えられないとお金は無理と思っていますが、この5円玉につまずいて一向にお金の学習ができないんですね。

お金を10まで数えることができ、数字とモノの量が一致していれば、お金は使えるようになっていけます。つまり、一桁の足し算や引き算ができなくても、お金は使えるということです。頭の中でモノの量を把握しているだけだから。5円玉も5であるとパターンで教えています。今このパターンを覚えるアプリを作りました。最近、リリースされたばかりです。子どもたちはお財布からお金を探すことが難しいので、コインフォームに金種ごと分けて入れます。コインフォームは振ってもお金は落ちません。一枚ずつ簡単に出すこともできます。これでお金を使える練習をしていきます。お金を食べてしまうような重度な知的障害のお子さんも、10ヶ月間、これを使って練習したら、一人で金額を見てレジでお金が払えるようになっていきます。

参加者 | 5円がわからないお子さんも、トレーニングをすればできるようになりますか？

住山 | 最初は、まず使えるようになるトレーニングをして、その次に両替の意味を教えます。両替は私の中ではできてもできなくもどちらでもいいと思っています。できたら便利になりますが、できなくても買い物はできますから。

参加者 | このような教育は何歳くらいが対象ですか？

住山 | 基本的には小学生以上を対象にしていますが、障害のある子どもたちにとって年齢はあまり関係ないですね。それよりも知的理解度で、私たちのところでは、10まで数えられるお子さんを対象にしています。大人は、ゆったり見守る気の長さや、心構えが最も必要ではないのかと思います。それが難しいのであれば、私たちのようなプロが入って、きちんと教えていくというのが大事だと思います。

岡本 | 本当に意味のある大切なお仕事だと思います。ぜひこれからも頑張ってください。今日はどうもありがとうございました。



I-OWA マンスリー・セミナー講演より ハッピー・マネー®教室で子どもたちに伝えたいこと

講演：岡本 和久
レポーター：赤堀 薫里

こども向けのマネー教育を始めてちょうど15年目です。起業をしてから、はじめは大人向けの投資教育をしていましたが、経済同友会の出張授業に参加することで、中学、高校で話をするが増えました。気がついたことは、大人もお金や投資のことを知らないけれど、子どもはもっと何も知らないということ。それは、日本が抱える非常に大きな問題でしょう。

授業では、最初に「何のために生きているのか」、人生の目的について考えてもらいます。ほとんどの子供はそんなことを考えたことがないのでしょう。お金持ちになるために毎日働いているわけではないし、偉くなるためでもない。子どもにとってみれば、人生の目的が、良い学校に入るためでもなければ、安泰な会社に就職することでもない。



人生の目的は、お金持ちではなくて、しあわせ持ちになることです。しあわせ持ちになるための富を表したものが「幸せの六角形～六つの富(ふ)」です。それらは、①お金(Financial Asset)、②健康(Fitness)、③家族(Family)、④友達(Friend)、⑤趣味(Fun)、⑥社会貢献(Philanthropy)です。英語では、どれも「フ」の音から始まっています。」それで「六つの富(ふ)」です。この六角形ができるだけバランスがとれ、外側に広がっていると幸福感が高いのではないかと思います。

長い人生は3つの時代に分けて考えられます。最初の三分一ぐらいは『学びの時代』です。次が『働きの時代』。そして、定年退職やリタイアをして『遊びの時代』に入ります。遊びとは、自分が一番やりたいことをすると、それが世の中のためになるということ。それが本当の意味での『遊び』です。子ども達にとって今は『学びの時代』です。『働きの時代』に入った時に、どのようにして社会に貢献していくのか。その技術を身につけるためにいろいろなことを勉強しています。働きの時代は、



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

社会に貢献できるための学びです。先ほどのしあわせの六角形で言えば、仕事はお金と社会貢献と楽しみ、この三つの要素が合体したものです。

お金っていったい何だろう。お金がないと生活ができないし、必要なものが買えない。お金があつて必要なものや欲しいものが買えたら『ありがたい。嬉しい。助かる』。だから大切なお金を払うのです。要するにお金は感謝のしるしです。これは基本的なコンセプトであり、一番子ども達に知ってもらいたい部分です。金を得るために仕事をします。仕事とは世の中に仕えることであり、世の中のためになることをします。そして、みんなから感謝されて受け取るお金が貯まると信用が増えていきます。信用が増えていくと、ビジネスが上手くいきます。感謝の貯金箱にお金の形で感謝が入ってくるとそれが信用になっていく。人から感謝をされずに人からお金だけ奪うと、すぐに見つかりひどい目にあいます。感謝と一緒にお金は世の中を巡る。お金と信用はすごく密接につながっているということです。

世の中に貢献して、自分の楽しみにもなってお金を得る。その得たお金をどのように使っていけばいいのか。自分の幸福感を最大化できるお金の使い方が、ハッピー・マネー[®]四分法です。つかうお金、ためるお金、・ゆずるお金、・ふやすお金と4つに分けて管理すれば、幸福感が最大化します。

四分法の優れている点は、意識の時間軸と空間軸を広げていく効果があることです。品格の高い人は、時間軸や空間軸を広く持っている人です。自分のことばかりではなく人のことも考えられる。今のことばかりではなくて、ずっと将来のことも考えられる。そういう人こそ品格が高いと考えています。私は人間としての教育と成長は、大人も子どもも、まず品格を高める。品格を高めるといって縁がないように思うけれど、全ての人が、今の自分という小さな箱から一歩踏み出して、少し先の事も考える。世の中のことも考える。そこから始まっていくわけです。

講演では、お金の歴史について、ハッピー・マネー[®]四分法の解説。起業の意味や心構え、ベーカリーの起業を例に、株式と債券の説明。お金と投資で学べることを解説くださいました。最後に、教育の目的は『その子が人生の最後の日を迎えるときに『良い人生だったな』と思えるようにしてあげることであり、親が子どもの教育をする上での目的でもあります』と結ばれました。



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945 年生まれ。1968 年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員（調査本部長）を務める。2004 年に退職。Facebook 上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



王の 846 号ホームランバットのエピソード

世界のホームラン王・王貞治にまつわるエピソードは、長嶋茂雄ほどではないが、ファンや著名人との心温まる話題は多い。昭和 55 年、あるパーティーで王選手と一緒にになった八代亜紀は「846 号はいつ打つのですか」と尋ねた。846 を自分の名前「やしろ」にかけて聞いたのである。それを覚えていた王は 846 号を打ったバットを八代亜紀にプレゼントしたのだ。そして、後日八代亜紀はお礼として王の肖像画を画いて贈ったという。

なお、王が公式戦最後のホームラン（通算 868 号）を打ったバットは徳光和夫が所有している。

遺憾

この言葉、本来は「残念」だという意味。しかし、いつの頃からか残念だという意味に、抗議や非難をするという意味が加わってきた。

具体的にいうと、「社員の過失に対し遺憾の意を表します」「遺憾ながら本日は欠席いたします」などの場合は、自分側の行為について残念な結果となって申し訳ないと謝罪する場合であり、「わが国 P-1 哨戒機に火器レーダー照射したことに対し遺憾の意を表する」「お返事をいただけず遺憾に思う」などの場合は相手側の行為について、そのようなことをされては残念だということから抗議する意味合いが加わっている。遺憾という言葉は安易に使うのではなく、意味合いが相手に分



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

かるようにする配慮が必要であり、そうでなければ「残念」など別の言葉で表現していただきたいものだ。「遺憾」という言葉を安易に使うのは遺憾なことである・・・

旧乃木邸のマッカーサーが植樹したハナミズキ

南北戦争で活躍した軍人の一人にアーサー・マッカーサーがいる。彼が駐日アメリカ大使館付き駐在武官だった時に日露戦争が始まった(当時 49 歳)。そして、乃木希典が指揮した旅順攻囲線と奉天会戦を観戦する。乃木の沈着冷静な戦いぶりとその人柄(武士道精神)に接したアーサー・マッカーサーは軍人としての乃木を尊敬するようになる。息子のダグラス・マッカーサーには日頃から「将来は乃木大将のような軍人になれ」と諭していたという。

そして大東亜戦争後、GHQ 司令官として赴任したダグラス・マッカーサーは旧乃木邸を訪れ、アメリカハナミズキを邸内に植樹したのである。



割愛(かつあい)

使い方の難しい言葉である。かつての文化庁の「国語に関する世論調査」によると、「割愛」という言葉を、惜しいと思うものを手放すという本来の意味で使っていた人は 17.6%しかいなかった。65.1%の人が、不必要な物を切り捨てるという本来なかった意味で使っていたと報告されている(わからない他が 17.4%)。

「割愛」は元来は愛着の気持ちを断ち切るという意味の仏教用語で、それから惜しいと思いながらも省略したり捨てたりするという意味が生じたのである。

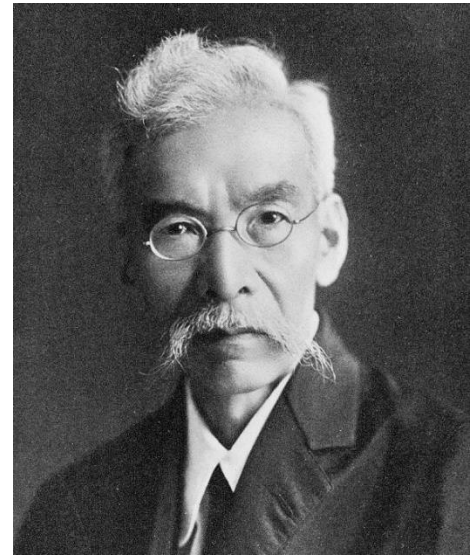
幻のノーベル賞(山際勝三郎)

よく知られているように日本人初のノーベル賞は昭和 24 年(1949 年)の湯川秀樹博士だが、戦前にも受賞に相応しい研究者は少なからず存在していた。日本細菌学の父・北里柴三郎、ビタミンの発見者・鈴木梅太郎、細菌学の野口英世、腫瘍学の佐々木隆興、フェライトの父・武井武等々・・・なかでも人工癌の発見で知られる「山際勝三郎」はノーベル賞に最も近かった病理学者だ。



山際は癌の発生原因が不明な時期にウサギの耳にコールタールを塗擦し続けるという地道な研究を長年続け、人工癌の発生に成功したのである。彼は1925年、1926年、1928年と没後の1936年の4度もノーベル生理学・医学賞にノミネートされている。とくに1926年はデンマークのフィビゲルが寄生虫による人工癌発生に成功したと伝えられ、(山際の研究の方が癌研究の発展に資するという意見があったにもかかわらず)フィビゲルにノーベル賞が与えられた。しかし、後年フィビゲルの研究は癌でないことが判明したのである。

1966年、当時のノーベル委員会の委員であったヘンシェンは国際癌会議で来日した際「私はノーベル賞を山際博士に贈ることを提唱したものです。しかし、受賞に結びつけることができず日本の皆さんに申し訳ない」と述べている。



指切りげんまん

子どもの頃「指きりげんまん、嘘ついたら針千本の～ます」と約束を交わすときに使っていた言葉は誰もが知っているが、いったいどういう意味なのだろうか。

「指きり」は、その言葉通り「指を切る」という意味だ。これは遊女の言葉に由来しており、惚れた男のため、嘘いつわりない愛の証しとして「自分の小指を切って贈った」という意味がある。また、「げんまん」は、漢字で書くと「拳万」。拳で一万回殴るという意味だ。

「指を切る」とか、「一万回殴る」、「針千本飲ます」など、この約束ごとの裏には何やら怖い意味が込められていたのである。



資産運用こぼれ話 絶対にやめてはいけない

寄稿：岡本 和久



2018 年には個人型確定拠出年金「イデコ」やつみたて NISA が幅広く普及しました。私の周りでも多くの方が口座を開かれたと聞いています。退職後の生活は年金だけではなかなか難しいという現実を考えるとこれはとてもよいことです。一番、重要なのは「将来の自分は今の自分が支える」ということです。

一方、年末にかけ世界的に株式市場が下落をしました。多くの方が恐る恐る投資を始めたところ、下落局面に遭遇して不安を感じたことだと思います。そのような方には「絶対に止めてはいけない」と言いたいのです。

アメリカに「ソックス(靴下)を買うようにストックス(株式)を買え」ということわざがあります。Socks と Stocks の綴りと発音が似ていることからこのように言われているのですがこれは真実です。誰でも靴下を買う時、定価 1000 円のものでセールで 700 円になっていればうれしいでしょう。靴下でなくてもどんなものでも安く買えるのはいいことです。でも、株式だけはなぜか安くなるとみんな敬遠してしまうのです。

株式を買うことは企業の株主資本を保有するということです。株価が安くなれば株主資本を安く買えるのです。しかも、グローバルに十分に分散された株式ポートフォリオの株主資本の総計は世界経済の成長とともにゆるやかに増加しているのです。

積立投資の基本は「ドルコスト平均法」です。これは毎月一定の日に定額を投資していく投資方法で資産形成をするには非常に有効な方法です。定額を投資するので株価が安い時は多くの口数を買うことができます。高い時は少ない口数を買います。これをひたすら続けていけば割安なコストのポートフォリオが出来上がるのです。

いずれにしても現役時代に積立投資する資金はずっと先の生活のためです。その間にポートフォリオの価値は増え続けます。株価は上下に大きく変動しますが、長期的に見ればほぼ価値を中心



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

にして推移しています。暴落があり、価値あるものを安く買えるのであれば、それは実は絶好の買い場なのです。その一点をしっかりと心にきざんで運用を続けることこそ成功の秘訣です。

(この原稿は投資手帖 2019 年 2 月号に寄稿したものに加筆修正を加えたものです)

歩み寄る投資運用と社^{フィ}

高橋陽子、岡本和久、

年金は先細り、政府・地方公共団体の財政は窮乏状態。

今後、社会保障や公的サービスの質は格段に低下していくことが予想される。

この社会の荒廃をくい止め、生活の質を向上させるにはどうしたら良いのか？

そこでは投資とフィランソロピーの歩み寄りが、大きな鍵になってくるに違いない。

「投資」と「フィランソロピー」が 日本社会再生の鍵となる

澤上：今回は投資とフィランソロピー（社会貢献）をテーマに話し合おうということなんですが、でもこの二つ、現在の日本では一見、とてもかけ離れて見えますよね。

伊藤：たしかに投資に関しては依然として「世の中ゼニや」みたいなガリガリのエゴイスティックなイメージがあるし（笑）、片やフィランソロピーというと、「よほど奇特で殊勝な人たちの世界だろう」といった風潮がありますから。

澤上：ところが投資と社会貢献は、これからの成熟経済の中ではベクトルの方向が、とても似てくるのではないかと思います。

伊藤：何しろ国や地方公共団体の財政がこれだけ悪化していますから、今後は医療や教育、治安といった公共サービスの質がどんどん低下していくことが予想されます。それに年金も、もう従来の水準では受け取れそうにありません。

世の中の不安は高まっていますが、かといって今までのように「年金がもらえない」とか、「政府が景気対策を打ってくれない」といったお上に頼る姿勢を続けていても仕方ありません。

それよりも私たちが考えたいのは、発想を転換して、民間のレベルで従来の公的サービスに代わるような社会保障のシステムを、つくりあげていってはどうかということです。

そしてそこで必要になってくるのが、投資とフィランソロピーということですね。

澤上：一説には現在、日本では公的部門に関係したり、補助金を受けているなど、何らかの形で「税金で食べている」人たちが、全就労人口の4割を越すそうです。

従来、それだけ強力に、政府は国民のお金を税金とか預貯金の形で吸いあげ、民間に再配分するということをやってきたわけです。でも現在、そのシステムが制度疲労を起こして機能なくなっています。

なぜかというと、そこにはもたれ合いだとか、利権や寄生、コスト意識のなさなど、ムダなものがいっぱい含まれているからです。セルフコントロール

ランソロピー 会貢献活動

伊藤宏一、澤上篤人



が効かなくなって、システムが野放図に肥大してしまっているわけです。

国債を大量発行して予算を調達し、度重ねて景気対策が打たれるけれど、さっぱり効果が現れないのはそのためなんですね。

ではどうしたらいいのかというと、これはわれわれの挑戦ですが、肥大化した公的部門に代わって、「投資」という効率性を追求するシステムを、福祉や教育など社会保障的な分野に導入してはどうかということです。ここに投資とフィランソロピーとの接点が見えるわけです。

ということで、今日は日本フィランソロピー協会理事の高橋陽子さんと、投資顧問会社を営んでいる岡本和久さんと一緒に、このテーマについて掘り下げて考えてみたいと思います。

**ちょっとした労力や工夫を出し合うことで
社会はもっと住みやすくなる**

澤上：ではここでまず、高橋さんに現在のご活動、

そして日本でのフィランソロピーの現状についてお話ししていただけたなと思います。

高橋：まず私たちの活動の根本にある基本的な考え方ですが、やはり先ほどもおっしゃられましたように、今までの行政依存、企業依存というシステムから抜け出して、これからはみんな一人ひとりが、自分の行動と責任でより住みやすい社会を創っていきましょうということです。私どもは、そのきっかけづくり、しかけづくりをしています。

たとえば、障害者でも地域で暮らすことができる人が、施設に入れられているといった場合があります。本人も幸せではないし、コストも莫大なものがかかります。

かわいそうだからではなく、同じ人間として地域で共に暮らし、できれば仕事もしてもらうことが、地域そのものを元気にやさしくすることになるのです。そのために、具体的にはITを活用した事業をしています。

ひとつは、ボランティアによる目の不自由な方へのインターネットを通じた音読サービスです。人には聞きにくい生活情報や、プライバシーに属するも



岡本和久

日興証券株式会社を経て現在、パークレイズ・グローバル・インベスターズ株式会社社長。
ラオスのビエンチャン市郊外、タオタンへの小学校建設のために資金提供をするなどの社会貢献活動も行っている。

のを中心に読んでいます。

もうひとつは、知的障害者施設で作っている製品で市場に出せるほどレベルの高い物の、オンラインショップを運営しています。

また、知的障害者の方々の経済的自立を支援するための、仕組みづくりを実験的にしています。自閉症の人はこだわりが強いので、うどんやそば職人としては、非常に力を発揮します。また、ダウン症の人は人懐っこい人が多いので、接客業では最高の笑顔でもてなしてくれます。

従来の日本は縦割りの「^{たこつぼ}蛸壺社会」ですから、知らない故の差別意識、閉塞感があります。これを取り払って、同じ仲間として一人ひとりが自立しておかつ支え合えば、もっと有効にそれぞれの資源を出し合うことができ、結果的に社会に開放感がみなぎって元気になるように思います。

そのために、まず出会いをつくり、体験してみるというきっかけづくりをしています。企業・行政・学校福祉の人たちに同じ土俵で関わってもらうことで、同じ人間なんだ、あるいはみんな違って当たり前なんだと感じてもらえれば、しめたものです。

こうしたことを企業の社会貢献として、また社員をはじめ、個人の社会参加活動として、関わるためのしかけづくりを積極的にしています。実際、ここ数年で、企業も個人も変わってきましたね。これをもっと育てる、社会システムをつくることが求められています。

伊藤：ボランティアやフィランソロピーは、もはや特別なことではなく、実はいろいろな社会の問題を解決していく上で必要な、ある意味とても「実用的」

で日常生活に密着したシステムなんですね。

高橋：ただし残念なのは、いまだに日本ではフィランソロピーを特殊視する風潮が強いことです。

フィランソロピーをポピュラーなものにしようということで、「まちかどのフィランソロピスト賞」という賞を設けて、市井の中で社会貢献されている方を顕彰しているんですが、結構辞退されたり、周りには黙ってほしいとおっしゃる方が多いんです。「世間に知れると、活動がやりにくくなってしまうからそっとしておいてください。家族にも教えていないくらいなんですから」というんですね。

やはり日本では慈善事業をやっているというのと、「金持ちの道楽だろう」といった妬みの目や、あるいは売名行為や税金逃れ、自己顕示と結びつけて見られる傾向があるということなんです。

私どもは公益団体ですが、まず役所から、「そういった顕彰は公益活動の一環とは認められない」と言われたりします。その理由は「個人を顕彰してるから」だということですね。

伊藤：驚くべきロジックですね。そもそもこうした活動は、個人の自発性こそが土台になるというのに。

さりげない、自然体の社会貢献

伊藤：ところで岡本さんは海外でも長く生活をされていますが、この辺のフィランソロピーに関する事情は向こうではどうなのでしょう？

岡本：私は北米での生活が主なんですが、たとえばアメリカという国は非常に個人主義的な風潮が強い反面、フィランソロピーがとても日常的な形で社会に浸透しているのも事実ですね。この辺はヨーロッパもおおむね共通していると思います。

現在、英国資本で米国に本拠のある会社に勤めていますが、別に対外的に宣伝などはしないけれど、それなりに工夫して社会貢献をやっています。

たとえば、クリスマスになると会社にクリスマスツリーが設置されて、社員がそれぞれプレゼントを持ち寄ってぶら下げていくわけです。そしてその集まったプレゼントをどうするかというと、いろいろな事情で親がいない子どもさんに贈るんですね。

それから年末にクリスマスカードを送るのをやめて、代わりにeメールでクリスマスの挨拶を送るわ

けです。それで浮いた切手代とクリスマスカード代を、慈善事業に寄付したりしています。一見、些細な金額ですが、これをイギリスのオフィスでもアメリカのオフィスでもやるという具合に全社的に行うので、結構な額になるんです。

伊藤：ちょっとした努力が必要ですが、これが社会全体で行われると、かなりの大きな力になりますね。

岡本：そうなんです。ここで大切なのは、特別に改まったりとか通り一遍というのではなくて、それぞれ創意工夫をして、過大な負担にならない範囲であっさりとやってしまうことです。

私事で恐縮ですが、ラオスの小学校建設の資金を提供した際のお金は、実は父親の葬儀の際に集まった香典なんです。参列者の方にことさら立派なお返しをするよりも、こうした使い方をした方が、より大きな目で見ると世の中のために役立つと思ったので寄付をすることにしたわけですね。

これを行ってわかったのですが、小学校ができてからずっと、「きっとあの学校から、ラオスのため、世界の平和のために役立つ素晴らしい人々が育つだろう」という楽しい夢がわいてくるんです。

言ってみれば、寄付という投資を行うことで、夢という配当を受け取ることができるわけです。これが、どれだけ人生を豊かにするかわかりません。しかもそれは、永久に続くわけです。

この経験を通して、「寄付」は夢という配当を払ってくれる「投資」なんだということを実感しました。

そして、こういうことをしている人は私の友人や知人にもたくさんいて、向こうでは別に特別なことではないんです。

日本では、たとえば森進一さんや杉良太郎さんのような方が、かなりのお金をフィランソロピー事業に寄付しています。陰徳という文化もありますが、できるだけ人目につかないように、ひっそり黙々となさっているようなところがあります。でもアメリカでは、俳優のカーク・ダグラスさんがホームレスの自立支援施設をつくって自分の名前を冠していても、だれも取り立てて騒いだりはしないんですね。

日本人の意識の底流に流れる フィランソロピー精神

伊藤：こうした欧米と日本とのフィランソロピーに

社団法人日本フィランソロピー協会理事長。中学校、高校でのカウンセラーを経て1991年、同団体の前身である国民政治研究会に入る。2001年より現職。従来の行政依存・企業依存のシステムから脱し、社会のさまざまな問題を市民自らの手で解決することを目的に、セミナーや出版活動などを展開している。また「まちかどのフィランソロピスト賞」「企業フィランソロピー大賞」などを創設、顕彰活動も行っている。



高橋陽子

対する姿勢の差なんです、やはり、歴史的な流れが随分違うことも影響しているんでしょうね。

まず日本では明治維新以降、欧米にキャッチアップするために、とにかく強力な中央集権体制を敷いて国家中心でやってきました。そのため公共サービスは国がやるものと決まっていた、パブリックな意識で自分たちが手作りで構築していくという発想が育ちませんでした。

それから市民社会というものはあまり育たなかったけれど、一昔前までは家族や親戚、あるいは地縁の絆が強くて、お互いに支え合いそれが相互扶助になっていたことも大きかったでしょう。

ところが急速に核家族化して血縁のつながりは薄くなってきたし、都市化も進行して地縁関係も疎遠になってきたので、気がついてみたら自分の周囲にセーフティーネットが何もなくなっていたという状況に直面しています。

澤上：それが効率化の負の遺産ですね。

昔は経済的には貧しかったけれど、「お互いさまです」とか「お世話様です」といった格好で、何か安心感がありました。

ところが効率化に走れば走るほど、頼れるものはお金しかない、倒れても自分一人しかいない、という状況になっていくわけです。

高橋：自然体のフィランソロピーをどう日本社会の中に根づかせるかということが現在の大きなテーマですが、そこでひとつの大きな鍵になってくるのは、その「お互いさまです」とか「お世話様です」といった、日本人の意識の底流に流れるパブリックな意識を呼び覚ますことではないかと思うんです。

歴史を振り返ってみると、結構いろいろと日本にはパブリックな意識はあるんですね。

たとえば近江商人（※注1）たちの間で伝えられてきた家訓に、「三方良し」というのがあります。

これは「売り手良し」「買い手良し」に加え、「世間良し」というのがあって、この三者にとって利益になる商売を行わなければならないということです。

そしてこの「世間良し」という発想は、まさにフィランソロピー的なビジネスの精神にはほかならないわけです。

伊藤：たしかに、古くは奈良時代^{ぎょうき}に行基^{かんがい}というお坊さんが民衆に働きかけて灌漑や架橋の工事を行ったり、布施屋^{ふせや}という旅人の宿泊所を設ける社会事業を行っています。

それからほかにも、勧進聖^{かんじんじりちようげん}重源といった僧侶たちが、民間からお布施を集めて病人や窮民を救済する施設をつくったりという例も多くあります。

江戸時代に入ると、「結」（※注2）や「講」（※注3）といった相互扶助組織も盛んになります。

それにそもそも、日本の近代資本主義の礎を築いた渋澤栄一のような人が、きわめてパブリックな意識の高い企業家でした。彼はあえて財閥をつくらずに、独占資本家と戦いながら社会的な利益を優先させてたくさんの企業や教育機関、医療機関を設立しています。

民間のレベルで支え合おうという精神は、日本人の中に脈々と流れているんですね。

高橋：そもそも日本では「働く」ということに、「稼ぎ」と「勤め」という二つの意味・要素がありますね。「稼ぎ」は自分の生活のため、そして「勤め」は公のためという仕事の要素です。

仕事に対してこういう言葉の使い方をする文化というのは、なかなかユニークではないかと思います。

ですからこの辺から、日本的な形でのビジネスとフィランソロピーの歩み寄りが起こる可能性は十分にあると思うんです。

伊藤：なるほど、その「三方良し」とか「稼ぎ」と



伊藤宏一編集主幹

「勤め」という考え方は、現在盛んになっているSRI（Socially Responsible Investment：社会責任投資）やCSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）とも通じる考え方ですね。

今までの社会貢献というのは、まずお金を稼いで、その中から寄付をするという発想でした。この中には「ビジネスを行う以上、公害を出したりあざといことをやってしまうのはある程度仕方がない、寄付はその罪滅ぼし」といったニュアンスも含まれていたのではないかと思います。

ところがここに来て、地球環境や人権問題がクローズアップされたこともあり、「経済活動と社会への貢献は一体でなければならない」と概念が進化してきています。

ではこのビジネスや投資と社会への貢献を一致させていくためにはどうしたらいいかというと、まず重要なのはお金についてもっと深く考えたり、そのための教育を行うことだと思うんですね。

アメリカのファイナンシャル・プランナーが作成する個人のキャッシュフロー表やバランスシートを見る機会があるんですが、支出の部のところに最初からチャリティ（寄付）の項目が設けられていたりします。普通に生活しながら富を分かち合うという考え方が、大分浸透しているんですね。

日本の場合、「ファイナンシャル・プランニング」の概念が導入されてから15～16年くらい経つんですが、不況ということもあり、まだ個人レベルのことに必死で、そこまで発想が回らないのが現状です。

結局、お金というのは幸福に生活していくためのツールなのだから、抱え込んだり、効率の悪い使い方をしていても仕方がありません。金庫の中に眠らせていたり、あるいは株値の値動きばかり見て、「上がった、下がった」と短期売買ばかりやっても、経

（※注1）近江商人：近江の国に生まれ育ちながらも、他国に出て店を開いたり行商することを基本とした商人。全国各地に出店・枝店と呼ばれる支店を積極的に開設し、さらには江戸・大阪・京都の三都に進出するほどの豪商となった。

（※注2）結：田植・稲刈り・屋根替えなど、一度に多くの労働力を要する仕事をする際、互いに手を貸し合う相互扶助的組織。

（※注3）講：一般の人々がわずかな資金を持ち寄って仲間の一人に貸し与え、事業資金とした相互扶助的な組織。江戸時代後期の篤農家・二宮尊徳の創設した「五常講」では金の貸し借りに際し、人間として守るべき道、「信・仁・義・礼・智」を理念として置くこととされた。

済の質はよくならないんですね。

ですから社会全体を考えて、できるだけ意味のある使い方をすることが、結局、自分の幸福の最大化につながるという理解を深める必要があると思います。

岡本：たしか経営学で有名なピーター・ドラッカーだったと思いますが、「人生の中で最終的な投資は寄付である」というようなことを言っています。

投資とは利益の追求ですが、それでも人生には限りがあるし、稼いだお金を墓場まで持っていくことはできません。相続税で政府に取られ、自分の意図

しないところに使われてしまうのはつまらないし、自分のお金を最も自分で納得できるように使う手段は、やはり寄付だというんですね。

それからジョン・テンブルトンという有名な投資家も「富によって人間が幸せになるためには、富を蓄積すること

に精神的な満足をもたらすような目的がなければいけない」という主旨のことを言っています。彼は「テンブルトン賞」という賞を設けて、あらゆる宗教の発展に貢献した人を支援しています。

この賞は賞金の高額なことでも有名で、ノーベル賞を受ける前のマザー・テレサや、それから文学者のソルジェニーツィンのような人が受賞しています。

結局、寄付や社会貢献というのは、究極的なお金の使い方でもあるんですね。

澤上：これは本誌のテーマでもあります。自分で考えて、自分で良かれと思うことにお金を使うには、やはり「個」が自立しているのが重要ですね。

まず前提として、「個」がなければ何も考えられないから、結局、「国かだれかがやってくれるだろう」ということで、もたれ合いになってしまいます。

伊藤：これからは「もたれ合い」ではなく、自立した個による「支え合い」で社会の問題を解決していくということですね。

高橋：大々的なスローガンがあったりというのではなくても、「何か面白そうですね、一緒に仲間に入りたいな」といった関係で個人が集まり、社会がつくられていくと。そんな世の中って、とても楽しいと思うんですね。



澤上篤人編集委員



ビデオ貸し出しのお知らせ

日本フィランソロピー協会が制作した映画、「まひるのほし」（佐藤真監督 1998年）のビデオを貸し出します。

この映画は絵画や陶芸などのアートに携わる、知的障害者と呼ばれる人たちのドキュメンタリー。世の中の既成の概念から飛び出して生きる主人公たちの姿が、生きる元気を与えてくれることでしょう。

くわしい作品の内容は協会のホームページ（<http://www.philanthropy.or.jp/publish/film/film.html>）でご覧になれます。

お申込は本誌編集部（住所、連絡先は巻末記載）、担当・伊藤（周）までお寄せ下さい。



<モデルポートフォリオ:2019年1月末の運用状況>

単位：％

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率			
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ～ 229万円
4資産型	積極型	4.91	-7.36	7.19	10.63	15.46	-4.07	12.33	61.99	83.01
	成長型	3.25	-4.58	5.38	8.11	10.74	-2.28	8.68	43.29	65.16
	安定型	1.59	-1.94	3.43	5.45	6.64	-0.62	4.82	26.34	46.70
2資産型	積極型	5.76	-5.93	7.47	12.16	17.05	-2.34	13.66	66.26	98.56
	成長型	3.82	-4.08	5.53	9.23	12.51	-1.35	9.07	46.60	76.40
	安定型	1.88	-2.39	3.51	6.18	8.71	-0.49	4.41	28.96	54.08

* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。
積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2018年1月末に1万円投資資金を積み立て始め、
2018年12月末の投資資金までとする(2019年1月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。

出所:イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは
「投信まとなび」のお問い合わせメール(<https://www.matonavi.jp/inquiry>)にてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンまで。

ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: FTSE WGBI (除く日本)
4資産型	積極型	40%	40%	10%	10%
	成長型	25%	25%	25%	25%
	安定型	10%	10%	40%	40%
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: FTSE WGBI (含む日本)	
	積極型	80%		20%	
	成長型	50%		50%	
	安定型	20%		80%	

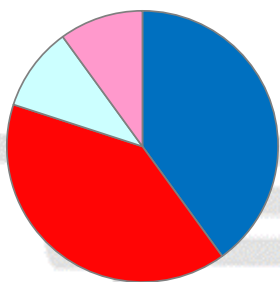
ポートフォリオは「インベストラ이프」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。
特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信『インベストラ이프』の
その他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

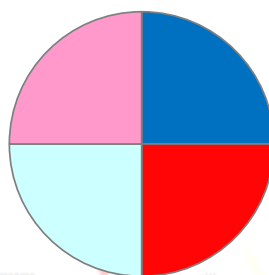
4資産型

- 国内株式:
TOPIX
- 外国株式:
MSCI KOKUSAI
- 国内債券:
NOMURA-BPI
(総合)
- 外国債券:
FTSE WGBI
(除く日本)

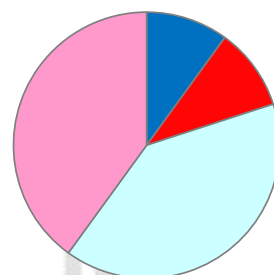
積極型



成長型



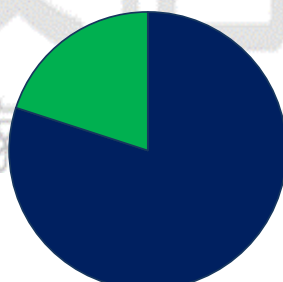
安定型



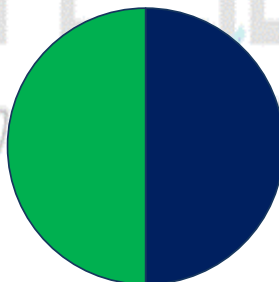
2資産型

- 世界株式:
MSCI ACWI
(含む日本)
- 世界債券:
FTSE WGBI
(含む日本)

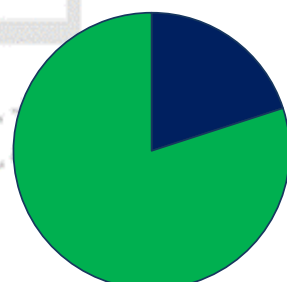
積極型



成長型



安定型



<国内で購入可能な代表的ETF:2019年1月末の運用状況>

当資料は「インベストライフ」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。※ファンド名をクリックするとそのファンドの詳細を見ることができます。

「長期投資仲間」通信『インベストライフ』のその他の記事はこちらからご覧ください。http://www.investlife.jp/

* 投信ブログ 「梅屋敷商店街のランダムウォーカー(インデックス投資実践記)」の管理人、水瀬ケンイチさんのご協力で銘柄を選定しました。
 なお、国内株式、債券、コモディティについては インベストライフ が選定しました。

Ticker	ファンド名	トータルリターン (米ドル換算)					トータルリターン (円換算)					リスク (円換算)	リスク (米ドル換算)	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の 月末資産額				純資産 2019年1月末		総資産率 または 信託報酬 (%)	イボットソン 分 類	連動を目指す 投資対象指数
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	7年 (年率)	10年 (年率)	1ヵ月	1年	5年 (年率)	7年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	7年 84万円	10年 120万円	1年 12万円	5年 60万円	7年 84万円	10年 120万円	百万ドル	億円			
1308	上場インデックスファンドTOPIX (日興AM)	5.76	-12.61	5.83	7.60	7.09	4.91	-12.87	7.21	13.21	9.16	18.88	15.05	-8.02	11.00	34.26	59.24	11.04	66.60	112.78	191.09	34,308	37,337	0.10	国内株式・ 大型ブレンド型	TOPIX(配当込み)
1348	MAXIS トピックス上場投信 (三菱UFJ国際)	5.76	-12.62	5.81	7.59	-	4.91	-12.88	7.20	13.20	-	-	-	-8.03	10.97	34.20	-	11.04	66.58	112.73	-	10,254	11,159	0.08	国内株式・ 大型ブレンド型	TOPIX(配当込み)
1554	上場インデックスファンド世界株式 (MSCI ACWI)除く日本(日興AM)	7.39	-8.21	5.89	7.97	-	6.52	-8.48	7.28	13.60	-	-	-	-3.93	12.48	35.16	-	11.53	67.49	113.53	-	37	40	0.26	外国株式・ 世界型(除く日本)	MSCI ACWI ex Japan指数(円換算)
VT	Vanguard・トータル・ワールド・ストックETF	8.15	-7.39	6.99	8.99	11.64	7.27	-7.67	8.39	14.67	13.80	20.48	16.58	-3.43	15.61	40.70	77.61	11.59	69.37	118.19	213.14	13,371	14,552	0.10	外国株式・世界型	FTSE グローバル・オールキャップ指数
IOO	iShares® グローバル 100 ETF	6.12	-5.24	7.06	8.86	10.50	5.26	-5.52	8.46	14.53	12.64	20.51	16.14	-2.95	17.65	42.05	76.00	11.65	70.59	119.33	211.20	1,815	1,975	0.40	外国株式・世界型	S&P グローバル 100 指数
TOK	iShares® MSCI コクサイ ETF	7.90	-5.90	7.34	9.92	12.25	7.03	-6.18	8.75	15.65	14.42	20.73	16.45	-2.88	16.45	43.67	85.40	11.65	69.87	120.68	222.47	145	158	0.25	外国株式・世界型	MSCI KOKUSAI(コクサイ) 指数
EFA	iShares® MSCI EAFE ETF	6.55	-12.54	2.59	5.84	7.99	5.69	-12.80	3.93	11.35	10.09	21.01	17.46	-6.30	4.25	21.92	44.68	11.24	62.55	102.41	173.61	65,152	70,905	0.31	外国株式・ 大型ブレンド型	MSCI EAFE 指数
VSS	Vanguard・FTSE・オールワールド (除く米国) スモールキャップETF	7.93	-16.03	3.09	5.59	-	7.06	-16.28	4.44	11.09	-	-	-	-8.67	4.45	22.62	-	10.96	62.67	103.00	-	5,641	6,139	0.13	外国株式・ 中・小型ブレンド型	FTSEグローバル・ スモールキャップ(除く米国) 指数
VTI	Vanguard・トータル・ストック・マーケットETF	8.60	-2.18	10.40	12.99	15.18	7.72	-2.47	11.85	18.88	17.42	21.01	16.01	-1.48	24.82	61.07	123.04	11.82	74.89	135.30	267.64	103,794	112,959	0.04	米国株式・ 大型ブレンド型	CRSP USTータル・マーケット指数
VB	Vanguard・スモールキャップETF	11.85	-1.37	8.09	11.93	16.10	10.94	-1.67	9.50	17.76	18.36	25.68	20.76	-2.51	20.05	53.41	115.41	11.70	72.03	128.87	258.50	23,776	25,875	0.05	米国株式・ 小型ブレンド型	CRSP USスモールキャップ指数
EEM	iShares® MSCI エマージング・ マーケット ETF	8.71	-14.63	4.17	2.28	8.57	7.83	-14.89	5.53	7.61	10.68	23.53	21.45	-3.48	11.25	20.92	34.67	11.58	66.75	101.57	161.60	33,419	36,370	0.67	外国株式・ 新興国型(複数国)	MSCI エマージング・マーケット指数
VWO	Vanguard・FTSE・ エマージング・マーケットETF	8.54	-14.49	4.56	2.37	9.29	7.66	-14.74	5.93	7.70	11.41	23.96	21.96	-3.28	9.59	19.91	35.20	11.61	65.75	100.72	162.24	60,452	65,790	0.14	外国株式・ 新興国型(複数国)	FTSEエマージング指数
FM	iShares® MSCI フロンティア 100 ETF	5.47	-17.58	1.10	-	-	4.62	-17.83	2.42	-	-	-	-	-6.80	1.51	-	-	11.18	60.90	-	-	489	532	0.81	外国株式・ 新興国型(複数国)	MSCI フロンティア・マーケット 100 指数
IGOV	iShares® 世界国債(除く米国)ETF	1.78	-3.92	0.03	0.71	1.96	0.96	-4.21	1.34	5.96	3.93	9.04	8.03	-1.18	0.44	7.97	16.42	11.86	60.26	90.70	139.71	925	1,007	0.35	外国債券・世界型	S&Pシティグループ・ インターナショナル・ トレジャリー・ボンド指数(除く米国)
AGG	iShares®・コア 米国総合債券市場 ETF	1.07	2.20	2.40	2.06	3.53	0.26	1.89	3.74	7.38	5.54	9.28	2.92	1.31	2.60	13.35	27.66	12.16	61.56	95.21	153.19	57,452	62,525	0.05	米国債券・ 中長期型	パークレイズ米国総合指数
TIP	iShares®・米国物価連動国債 ETF	1.37	0.79	1.44	0.63	3.46	0.55	0.49	2.76	5.87	5.47	9.19	5.02	-0.36	0.60	8.42	22.37	11.96	60.36	91.08	146.85	21,804	23,729	0.20	米国債券・ インフレヘッジ型	パークレイズ米国TIPS指数(シリーズL)
RWX	SPDR ダウ ジョーンズ インターナショナル リアル エステート ETF	9.64	-2.93	4.16	6.70	10.52	8.76	-3.22	5.52	12.27	12.67	20.27	18.68	1.85	6.71	22.91	54.16	12.22	64.03	103.24	184.99	2,378	2,588	0.59	海外不動産 (除く米国) セクター型	ダウ・ジョーンズ・ グローバル(除く米国) セレクト・ リアル・エステート・セキュリティーズ指数
IYR	iShares®・米国不動産 ETF	11.41	9.79	9.16	8.77	14.87	10.51	9.47	10.59	14.44	17.09	24.41	22.27	7.21	18.10	42.10	94.92	12.86	70.86	119.36	233.91	3,330	3,624	0.43	米国不動産 セクター型	ダウ・ジョーンズ米国不動産指数
GSG	iShares® S&P GSCI コモディティ・ インデックス・トラスト	8.58	-10.01	-13.61	-10.78	-5.10	7.70	-10.28	-12.48	-6.13	-3.26	21.10	19.00	-10.40	-16.15	-23.73	-28.05	10.75	50.31	64.06	86.34	1,291	1,405	0.75	コモディティ・総合	S&P GSCI商品指数
GLD	SPDR®ゴールド・シェア	3.21	-2.01	0.73	-4.25	3.29	2.38	-2.31	2.04	0.74	5.30	16.02	17.62	3.13	3.48	3.75	12.07	12.38	62.09	87.15	134.48	35,039	38,133	0.40	コモディティ・貴金属	金地金価格 (ロンドン午後決め値)

*積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとします。例えば1年の場合は2018年1月末に1万円で積み立てを開始し、2018年12月末投資分までの2019年1月末における運用成果とする(2019年1月の積み立て額は入れない)。

出所: MorningstarDirect のデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは「投信まとなび」のお問い合わせメール(<http://www.matonavi.jp/inquiry>)にてお気軽にご返信ください。